

ペルー 今シーズンのブドウ輸出は7,200万箱で横ばいの見込み

FreshFruitPortal 2023年10月9日

ペルーでは数週間前に2023-24年度の出荷シーズンが始まった。大きな関心事は、同国が世界最大の生食用ブドウ輸出国の地位を維持するかどうかである。ペルー生食用ブドウ生産者協会(Provid)事務局長のアレハンドロ・カブレラ氏は、本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し、生食用ブドウは他の作物と同様に気象条件の影響を受けていると語り、状況が大きく変わる可能性があるため、出荷数量は週ごとに分析されることを強調した。同氏によると、8月と9月の数値は10月下旬に更新される。(以下「」は同氏の発言)

今シーズンのペルーの生食用ブドウの予想はどうか?「8月に園地の果実で最初の予測を行い、この最初の予測を9月に再調整して約7,200万箱という予想数量が得られた。これは、2022-23年度シーズンと非常によく似た数字だ。昨シーズンの7,140万箱と比べて実質的にゼロ成長となる。これは生産者が8月と9月に受け取った情報による現在の状況であることを強調したい。不安定なシーズンであり、週ごとの気象条件により変化する可能性がある。もちろん、エルニーニョも影響を及ぼすかもしれない。」

「したがって、シーズンを通して通常よりも頻繁に予測の更新を行うという約束に従い、10月に再び調整及び修正を行う。分かっていることの1つは、エルニーニョ現象が起こっていなかったらペルーの出荷量はもっとずっと多かったはずで、つまり通常のシーズンと比較して減少するということだ。だからこそ、我々は細心の注意を払い、常に数字を更新し、明確なメッセージを出さなければならない。おそらく、シーズンが進むにつれて、数字は下向きに調整されるだろう。」

最も出荷量が多い地域はどこか? 2023年8月~9月のデータを2022年と比較すると、ペルーの北部で減少し、南部で増加していることを示している。産地は、北部のピウラ、ランバイエケ、トルヒージョの各県・地域と南部のリマ、イカ、アレキパの各県である。「ペルーの出荷量は過去3シーズンには年平均12.7%成長し、昨シーズンは10%、2シーズン前は13%、3シーズン前は15%の成長であった。地域別に比較すると、北部地域は過去3シーズンで平均年20%増加し、南部地域は11%しか成長していない。初期の予測では、北部の出荷量が近年よりも少なくなるため、今シーズンはこの傾向が当てはまらないと予想できる。」

輸出されている主な品種は何か、またどの市場向けか?「現在、従来からの品種はペルーの生食用ブドウの30%を占めている。これらは、気象の状況によって非常に急激な減収するため、エルニーニョ現象の影響を最も受けやすいブドウである。」一方、70%が権利関係のある(ライセンスされた)品種であり、天候の影響はすべてのブドウ品種で見られるものの、権利関係のある品種への影響は従来の品種と同じではないと同氏は付言する。従来からの品種の生産者の中には、30%から50%の範囲の減収を予想する人もいる。

これまでのところ、主な市場はどこか? 第38週(9月中下旬)現在、最大の出荷先は米国で20%を占め、2位はコロンビアで15%、メキシコも15%、オランダが13%、その他の国が38%である。

ペルーは世界最大の生食用ブドウ生産国でいられるか?「チリの最初の予測を待って、両国の量がどのようになるかを確認する必要があると思う。チリの予測と当協会の予測の更新を少し待ちたいと思う。」

価格をどのように見ているか?「米国等の市場では、ハリケーンヒラリーのために例年よりも果実が少ないことを頭に入れておく必要がある。カリフォルニア州生食用ブドウ委員会は、ハリケーンによる損失は約2,500万箱であり、残りの生産量の最大50%が影響を受けると予測した。そのため、利用可能な供給量が少なく果実の入手が難しくなり、一方で需要が一定であれば、通常は価格の変動が見られる。」

「米国産の量が少ないことに加えて、チリ産がどうなるかをわからない中、ペルー産が考えられていたよりも入手しにくくなれば、価格の面で影響を与える可能性がある。つまり、価格の変動の仕方が従来とは異なる可能性がある。」